



● 発行所
北海道被爆者協会
札幌市白石区平和通
17丁目北6-7

北海道版 北海道ノーモア・ヒバクシャ会館内
TEL/FAX 011-866-9545

北海道被爆者協会 ホームページ <http://h-nomore-hibakusha.org/> メール dohidankyo@poppy.ocn.ne.jp

被爆者が背負ってきた課題を私たちも一緒に！

— 日本被団協被爆者相談講習会開かれる —



11月3日、札幌市の被爆者協会エルプラザで被団協は組織的な被爆者相談講習会活動ができたが、札幌市被爆者の会なくなるだの秋の学習会、被爆二ろうという世プラスの会会員のことを前提つどいを兼ねて行われ、「被爆者」が背負ってきた課題を名でした。

被爆二世をめぐって

今年のテーマは、高濱住治郎さんが「被爆二世をめぐると年齢のため遠からず諸問題と継承の課題」を講演。

私たちも一緒に！としました。



めぐる

午前中は日本被団協事務局次長

胎内被爆者の濱住さんは被爆時の記憶がありません。父が亡くなった49歳の時、父と家族の被爆の状況を細かく調べ、自ら語り始めます。胎内被爆者全国連絡会を結成、地域の被爆者の会、被団協で活動。NP T再検討会議でニューヨークにも行きました。

「以下講演の要旨」日本被団協は二世も原爆被害者と位置づけ被爆者に

準じた施策を求めています。56年の被団協の結成宣言や66年の「つるパンフ」等で二世の位置づけや要求を具体化し、少しずつ政府・自治体の実現させてきました。

2016年に被団協が実施した「二世実態調査」の報告を読み込んでさらに政府に対策を迫っていきたい。また二世と県被団協との関係は、それぞれ県独自の歩みを尊重したいと思います。

活動の拠点づくりを

昨年『被爆者からあなたへ』というブックレットを発刊。日青協の皆さんと読み合わせをして勉強しました。多くの人に広めて下さい。

継承の課題を考える時、ぜひそれぞれの地域で活動の拠点づくりを進めて下さい。北海道は早くに資料館・会館を作り先進的な活動を行っています。中央の「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」でも、昭和女子大、武蔵大などと連携し、未来につながる記録のアーカイブを進めています。「人として生きる」ために、小さくても学び合える場があることが大事です。様々な団体、若い人たち、子どもたちと一緒に取り組んで下さい。

二世プラスの会

二世プラスの会は、被爆者・一般の方とともに①親の被爆体験を語り継ぐこと、②二世の健康問題に取り組むこと、③被爆者の運動を引き継ぐことを課題にしています。①は全道で6名ほどの二世が、道庁の原爆展で語ったり地域で語っています。でもまだ足りません。②は二世健康手帳ができる見通しで具体的な成果も少しずつ出てきています。③の運動の継承にはなかなかできません。参加者の幅を広げる、ネットワークをつくることを真剣に追求しなければなりません。その芽は山ほどあると思います。また「再び被爆者をつくらない」ための方法もいろいろあります。紙芝居、イラスト、音楽等々。そしてあそこに平和活動の、資料の拠点があるというものを作りたいと思っています。